

Cover History

— 表紙写真由来 —

ため池を活かす・通谷池の多面的機能

— 愛媛県砥部町，松山市 —

(株)チェリーコンサルタント 近田昌樹

1. はじめに

通谷池は農業用水の池ではあるが，池の周りに桜・モミジが植栽され，周辺には県立とべ動物園やえひめこどもの城，愛媛県総合運動公園等があり，近隣住民の朝夕の散歩，市民の花見や紅葉狩り，釣り，野鳥観察，ボート遊びの場として老若男女を問わず市民に開かれている。また，噴水による動的景観づくりと水質保全が行われるなど，ため池・農業用水の多面的機能の活用もなされている。

表紙写真はこどもの城の「てっぺんとりで」の展望台(図-1の◎)から北西方面，通谷池の東側を撮影したもので，手前からこどもの城の園内周遊道と花壇，右手にはイベント広場ゾーンの施設，湖面のボートと桜の散歩道，その奥にとべ動物園が見える。奥の山には柑橘園があり，右奥に松山平野が広がっている。

2. 通谷池の概要

通谷池は，松山市中心地から約10 km南に位置する。池の大部分がある砥部町は，国の伝統的工芸品でもある白磁の砥部焼が有名であり，高級柑橘の「紅まどんな」などの産地である。また松山市のベッドタウンとして人口2万人を有する町である。

当地域は1771年の大干ばつで水争いによる死者が出るなど，灌漑用水が不足し頻繁に干ばつ被害が出た。そのため通谷池は1793年に旧宮内村と旧麻生

村(ともに現砥部町)の共有で建設されている。

その後，昭和20年代の食糧難もあって用水の安定供給が望まれ，愛媛県の中央部に位置する松山平野と周桑平野の農業用水および松山平野臨海部への工業用水と水力発電を目的として，国土総合開発計画に位置付けられ，1957～1967年に実施された国営道前道後平野農業水利事業で貯水量を増やす工事が行われた。

これにより通谷池は，仁淀川上流部に建設された面河ダムを水源とする調整池として，松山平野の重信川左岸の水田および樹園地1,240 haの農業用水を供給することとなった。旧堤を約9 m 高上げて造られ，主堤 $L=91.8$ m, $H=25.6$ m となり，嵩上げに伴い2つの副堤も整備され，総貯水量88.4万tとなった。建設時は夏季用水の調整池であったが，1989～2013年に実施された国営かんがい排水事業「道前道後平野地区」(以下，「2期事業」という)での佐古ダムの建設により，現在は冬季用水の調整池としても使用されている。

写真-1は，表紙写真と同じ展望台から西方の展望である。写真の中央部にあるのはこどもの城の冒険ステーションで，てっぺんとりでに登る乗用のてんとう虫のモノレール乗り場がある。写真右側には通谷池の本堤があり，その向こうには砥部町の住宅街が広がり，奥の山には柑橘園がある。写真の中央左の湖面には，水質保全と景観形成効果がある噴水が見える。

なお，通谷池は南海トラフ地震等の耐震対策と施設の老朽化対策を目的として，2023年度に新規採択された国営かんがい排水事業「道前道後用水地区」(予



図-1 通谷池周辺概要図(国土地理院電子地形図一部加筆)



写真-1 こどもの城「てっぺんとりで」から池西側を望む

定工期 2023～2035 年) で本堤の耐震補強が計画されている。

3. 通谷池の環境施設整備と活用方法

池完成後、通谷池を管理する道後平野土地改良区と砥部町、地元自治会、近隣住民等が協力して桜・モミジやアジサイの植栽などの景観整備や草刈り等の維持管理が行われ、池の周回道路は地域の人々の散歩や花見等に利用されていた。そうした中、1980年に池北側に愛媛県総合運動公園、1988年には松山市の道後から県立動物園が移転してとべ動物園が開園した。その後、2期事業実施期間中の1998年にこどもの城が開園し、県民の健康娯楽保養エリアとしての貢献が期待された。一方、2期事業での通谷池の斜樋等の整備が1998年に完成することを踏まえ、こどもの城の整備に併せて土地改良施設が有する水辺空間を多目的に活用する環境整備と、国営施設の他目的利用による遊覧ボート等の運用が計画された。

水辺空間環境整備は、県営水環境整備事業「通谷地区」として、1998～2001年に総事業費約1.7億円で実施された。池にはガマやマミズクラゲが生育し、冬にはカモやサギが飛来する。整備内容は、安全施設や植栽がある遊歩道1.5km、景観を楽しむ親水護岸・休憩施設一式、静水池機能の小池を堰上げし常時水位を確保して自生する水生植物等の保全と景観を楽しむ八橋を整備した生態系保全施設(水生植物園)1カ所等である(図-1)。写真-2は農免農道から見た景観で、手前から国営事業の分水工と右側にスプリンクラがある柑橘園、生態系保全施設、その左手に親水護岸と休憩施設、整備された噴水(水質保全工)が見え、湖面の周りが遊歩道となっている。

他目的利用では、こどもの城のレストラン前にボート桟橋を設けている。こどもの城の年間来場者は約37万人であり、春から秋にかけてボート遊覧、また近年では、こどもの城主催で通谷池にいる外来種魚のブラックバスやブルーギルの釣りや料理・食事をセッ



写真-2 県営水環境整備事業で整備した水生植物園等

トにした、外来種等の環境への影響や環境保全を学ぶ場としての釣り大会も開催されている。

また2022年には、池の上空を通過しこどもの城ととべ動物園(来園者年間約45万人)を結ぶジップラインが新設された。写真-3がその景観である。

4. 環境保全活動

先に述べたように植栽等の環境づくりが行われていたが、各種団体からの保全活動への参加希望もあり、広く参加者を募り継続的な活動とするため、2008年に池完成後から維持管理に携わっていた土地改良区、砥部町や自治会等に加え、とべ動物園、愛媛県総合運動公園、こどもの城の管理者や企業等が参加した「通谷調整池環境保全推進協議会」が設立された。毎年協議会が主催し、景観・環境づくりや草刈り、ゴミ拾い、遊歩道の清掃等が行われている。ちなみに2019年8月に実施された活動には農林水産省・県・砥部町・町ライオンズクラブやボーイスカウト等16団体、個人参加も含め134人が参加している(写真-4)。

5. おわりに

通谷池は、歴史性や自然環境、多面的活用、官民一体となった管理・環境保全活動等が評価され「ため池百選」に選定されている。また道後平野土地改良区は、小学生を主な対象として2002年から始めた生き物調査や水質調査を含めた体験型の「水の出前授業」、地域住民への啓発等、継続的な活動により2023年度に農業農村工学会から環境賞を授与されている。



写真-3 池水面のボートと池の上を渡るジップライン



写真-4 池遊歩道の草刈り清掃活動(道後平野土地改良区提供)